

実習目的

病院施設の概要、看護の対象の入院環境と療養生活を理解する。

実習目標

1. 病院・各部署の概要がわかる。
2. 入院の生活環境がわかる。
3. 看護師が行う看護ケアに同行し看護活動の実際がわかる。
4. 看護師を通して対象とのコミュニケーションの図り方がわかる。
5. 中央材料室の見学を通し感染源対策など、既習した内容を深めることができる。
6. 看護者としての姿勢態度を身につけることができる。

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
1. 病院・各部署の概要がわかる	1)病院の機能と役割を知る  2)看護活動の場と他職種との役割を知る  3)病院内環境の特徴や工夫がわかる	(1)病院オリエンテーション ①理念・組織・病院の特色について説明を受ける ・病院の沿革・基本理念、診療機能の特色、病院組織 ・利用者状況（利用者数、在院日数、年齢、利用目的等） ・看護部理念・看護部目標 看護部組織、看護体制 安全対策(感染・事故防止等) ・地域連携、介護福祉部門連携 ②病院各部門の特徴と機能の説明を受け見学する ・外来診療、手術室、検査部、放射線部、リハビリテーション部 栄養部 ・医事課、医療相談、地域連携室、訪問看護ステーション ③看護活動(外来見学をする) ・外来看護の特徴や実際の看護活動の内容の説明を受ける ・外来を受診する対象の健康レベルを観察する ④病院内の構造設備と特徴を見学する	a.病院オリエンテーションを受ける ・看護活動の場の理解 ・病院の構造・設備、機能と役割を理解する ・看護の役割・機能、看護活動の概要を理解する b.看護師と共に働くさまざまな職種（チーム医療に携る構成員）を確認、各部署から役割について説明を受ける c.医療チームとして看護師は他の職種と連携・協働していることを学習する d.地域における看護の場を調べる e.外来における看護サービスを調べておく f.利用者にわかりやすい表示や工夫、構造設備について見学し確認する

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
2. 入院の生活環境がわかる	<p>1) 対象の療養環境を知る</p> <p>2) 病室・病床の環境を調整できる</p> <p>3) ベッド周囲の環境整備と病床を整えることができる</p>	<p>(1)対象の病床環境を見学しそれぞれの環境の整え方と病室環境の調整を考える</p> <p>①病床環境を下記の場面から見学 食事環境、排泄環境、睡眠・休息環境、転倒転落防止のための環境</p> <p>②見学して下記の環境は満たされていたか、または調整が必要かを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシーの保護、個室、多床室の違い、音、臭気、採光、室温湿度、病室の空間、ベッドの高さ、柵の設置、床、廊下、トイレ、浴室、コミュニケーションの場</li> </ul> <p>(2) 環境調整技術の援助の実施</p> <p>①観察した結果、室内の温度・湿度、空気、採光、騒音、プライバシーの調整を行う</p> <p>②対象のベッド周囲・床頭台の整理整頓を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象に了解・了承を得る</li> <li>・必要物品の準備</li> <li>・実施 後片付けまで実施する</li> <li>・終了後は対象・看護師に終了したことを報告する</li> </ul> <p>③実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッドメイキング（オープンベッド作成）を行う</li> <li>・塵・埃の除去</li> <li>・ナースコールの位置</li> <li>・ベッド柵の位置</li> <li>・私物の置き場所の確認(ティッシュペーパー、湯のみなど)</li> </ul>	<p>a.対象の基本的ニード充足のための各環境を見学し下記の視点から考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境調整技術の基礎知識</li> <li>・人間と環境の概念を確認</li> <li>・療養生活と環境</li> <li>・生活環境の調整</li> </ul> <p>b.既習の知識を使い実際の病室環境を見学する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病室・病床の選択、室温湿度、光と音、色彩、空気の清浄性において、人的環境</li> </ul> <p>c.見学の結果、環境調整技術援助の実際を下記の視点から実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全であるか</li> <li>・清潔であるか</li> <li>・物品は十分で適切か</li> </ul> <p>d.ベッドメイキングの実施手順と留意点を確認しペア学生で実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病床で包布カバーの実施体験(学内では行っていないので、指導を受け実施)</li> </ul>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
3. 看護師が行う看護ケアに同行し看護活動の実際がわかる	1) どのような看護を提供しているかを知る	<b>(1)病棟オリエンテーション</b> ①看護体制・看護方式・看護記録・報告、病床数・入院対象の特徴 病棟の構造設備 <b>(2)日常生活援助・診療の援助の実際を見学</b> ①療養上の世話 ・食事、排泄、移動・移送、睡眠・休息、清潔援助の場面を見学 ②診療の援助 ・与薬(内服・注射法)、バイタルサイン測定、包帯交換、回診の見学、検査の看護(採血など) <b>(3)標準予防策(スタンダードプリコーション)</b> ①手指衛生の実施 ・一処置一手洗いを実践 ②医療廃棄物の処理法の実際 ・感染性廃棄物の分別・表示の把握	<b>a.看護の機能と役割</b> ・看護の対象を知る ・看護の働きかけの内容を確認する(生活の中で営まれるケア、健康回復増進、疾病の予防) ・働きかけの仕方(独自にまたは他職種と協働) ・活動の場 ・社会的役割と保健師助産師看護師法より看護師の業務の定め「看護師とは」 <b>b.看護活動の実際がわかるように看護場面に同行し看護援助を見学する(行動観察)</b> <b>c.標準予防策の基礎知識</b> ・手指衛生の方法の実際 ・廃棄物の性状に応じたバイオハザードマーク(分別・表示)に基づいた処理方法
4. 看護師を通して対象とのコミュニケーションの図り方がわかる	1) 対象とのコミュニケーションの必要性がわかる  2) コミュニケーションを図るための基本行動がとれる	<b>(1)対象と看護師がコミュニケーションをとっている場面を見学する</b> ①接近的コミュニケーション ②話の聴き方 ③オープンエンドクエスチョン クローズドクエスチョン ④何について会話を図っていたのかわかる <b>(2)対象とコミュニケーションを図るための基本行動</b> ①自己紹介、外見・身だしなみ、表情、視線、相手との距離・身体の向き、姿勢・動作、ジェスチャー、テリトリー、におい、声量・声のトーン、対象の状況の確認、説明方法(了解や了承の取り方) ②コミュニケーションの基本技術を使いながら対象と会話をする	<b>a.看護の対象である人とは・看護とはなにか</b> ・主要概念の学習から人間環境、健康、看護、学習・教育の主要概念を確認 <b>b.関係構築のためのコミュニケーションの基本を学習する</b> ・接近的・非接近的行動 <b>c.対象との会話の内容から学習すること</b> ・看護の対象は生活者であることを確認する ・個人の価値観・人の尊厳 <b>d.対象との会話の内容を学生から指導者に伝える</b>

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院前(普段の生活)と入院生活や環境の違いを対象と会話しながら確認する</li> <li>(食事内容や時間・就寝・起床時間、睡眠時間・活動範囲など)</li> </ul>	
5. 中央材料室の見学を通し感染源対策など、既習した内容を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>1)洗浄・滅菌・消毒の目的・種類とその方法がわかる</li> <li>2)安全性・合理性・経済性を考えた仕組みや工夫がわかる</li> <li>3)病棟と中央材料室の連携がわかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)各種洗浄消毒法と滅菌法の操作技術の説明を受け見学する</li> <li>(2)ガラス器具、ゴム、チューブ製品、衛生材料の洗浄法と保管場所・期間の説明を受け見学する</li> <li>(3)中央材料室と病棟との連携方法の説明を受ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a.標準予防策(スタンダードプリコーション)の考え方を学習</li> <li>b.対策の実際 <ul style="list-style-type: none"> <li>・手指衛生の方法を確認</li> <li>・洗浄・消毒・滅菌の基礎知識</li> <li>・病棟との連携は、説明を受け内容を整理する</li> </ul> </li> </ul>
6. 看護師としての姿勢態度を身につけることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>1)看護学生としての責任を自覚した行動がとれる</li> <li>2)看護学を学ぶ動機を明確にすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)姿勢・態度 <ul style="list-style-type: none"> <li>①対象のプライバシーに配慮し、知り得た情報を外部に漏らさない</li> <li>②その場に応じた挨拶・身だしなみ・言葉遣いができる</li> <li>③決められた時間・約束・規則を守ることができる</li> <li>④グループメンバーと協力した行動がとれる</li> <li>⑤不明な点は質問し確認することができる</li> <li>⑥相手の指導助言を素直に聞くことができる</li> </ul> </li> <li>(2)看護師インタビュー <ul style="list-style-type: none"> <li>①実習での学び・気付きなど感じたことを伝える</li> <li>②事前準備した質問からインタビュー開始(看護の魅力を探る、看護の特徴や役割について考える)</li> </ul> </li> <li>(3)今後の自己の学習課題を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a.学生の倫理要領に沿った行動をとる <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や家族、同室者、病院スタッフに挨拶</li> <li>・言葉遣い、身だしなみ</li> <li>・自己の健康管理</li> <li>・記録の提出期限・集合時間を守る</li> <li>・守秘義務・個人情報保護における規範行動の理解</li> <li>・学生間での協力協調の取り方</li> <li>・不明な点をそのままにして行動しない</li> </ul> </li> <li>・実習の学び・気付きや考え、感じたことを自分の言葉で述べる。</li> <li>・看護学を学ぶ上で確認しておきたい事柄を準備して、質問する</li> <li>・リフレクションシートを活用して実習での学び・自己の学習課題を考える</li> </ul>

## 実習方法

### 1. 対象の選定

- 1) 言語的コミュニケーションが可能である。
- 2) 日常生活の援助が見学できる（他対象でも可能）。
- 3) 病状が安定している。

### 2. 見学実習場所

- 1) 病棟、外来、手術室・中央材料室、検査部、放射線部、リハビリテーション部、栄養部  
医事課、医療相談室、地域連携室、訪問看護ステーション

### 3. 実習日程と配置

実習1日目	病院施設オリエンテーション（全員）	
実習2日目	A 学生20名 病棟実習1日目 (1～5階病棟) 4名×5セクション	B1 学生10名 中央材料室実習 B2 学生10名 外来他部門見学
	実習3日目	A 学生20名 病棟実習2日目 (1～5階病棟) 4名×5セクション
実習4日目		A1 学生10名 中央材料室実習 A2 学生10名 外来他部門見学
	実習5日目	A2 学生10名 中央材料室実習 A1 学生10名 外来他部門見学

### 4. 実習の進め方

	行動予定	学習内容	実習記録
事前準備・事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習全体オリエンテーション</li> <li>2. 基礎看護学実習I aオリエンテーション</li> <li>3. 使用する実習施設の概要説明 集合時間・場所の確認</li> <li>4. 実習準備学習の確認               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護の概念(人間・健康・環境・看護)を学習する</li> <li>2) 病院の機能と役割について</li> <li>3) 病院で働く専門職の職種とその機能と役割について</li> <li>4) 病室環境のアセスメント・技術練習(環境整備・ベッドメイキング)</li> <li>5) インタビュー質問内容の検討準備</li> </ol> </li> </ol>	臨地実習要綱を持参する ・特に学生心得について把握しておく 基礎看護学実習要綱を持参する ・実習の目的目標・行動目標・実習内容を把握 ・実習での持ち物の確認(指定ユニフォーム ナースシューズ、筆記用具、メモ帳、臨地 実習要綱・基礎看護学実習要綱、行動計画表、 技術経験録、自己評価表、出席簿) ・行動計画表を立案し担当教員の指導を受け清 書する(病院オリエンテーション、外来他部門 実習、中央材料室実習)	様式1-1 実習開始の 前週で提出 し指導を受け ける

	行動予定	学習内容	実習記録
実習初日	<p>9:00～11:00</p> <p>1. 病院オリエンテーション</p> <p>1) 病院の沿革や特色、診療機能の特色</p> <p>2) 看護部理念・看護目標 看護部組織、看護体制、安全対策</p> <p>3) 地域連携、介護福祉部門連携</p> <p>4) 病院組織と各部署の役割と連携</p> <p>5) 施設使用上の注意</p> <p>6) 実習生として注意事項</p> <p>2. 病院各部門の見学 管理棟 訪問看護ステーション</p> <p>1F 医事課・総合受付→X線・CT・MRI 検査室→臨床検査室・心電図・エコー室→外来診察室・処置室</p> <p>2F 物理療法室→薬局→栄養管理室→売店→中央材料室(手術室)</p> <p>3F 医療相談室、地域連携室 リハビリテーション部(理学・作業・言語療法室)</p> <p>1病棟→2病棟→3病棟→4病棟→5病棟</p> <p>3. 院内の構造設備および特徴を知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更衣室で着替え、身だしなみを整え指定場所に集合する</li> <li>・病院オリエンテーションを受ける 基礎看護学実習要綱 実習内容参照</li> <li>・行動計画表の実施計画に沿ってオリエンテーション内容の学びをまとめる(様式1-1)</li> <li>・看護師と共に働くさまざまな職種(チーム医療に携る構成員)について紹介を受け、各担当部署から役割について説明を受ける</li> <li>・医療チームとして看護師は他の部署や職種と連携・協働していることについて説明を受ける</li> <li>・利用者にわかりやすい表示や工夫、構造設備について説明を受ける</li> </ul>	様式1-1
病棟実習1日目	<p>9:00～14:00</p> <p>1. 配置された病棟へ挨拶 行動計画発表</p> <p>2. 病棟オリエンテーション</p> <p>1) 病棟の構造設備、特殊性</p> <p>2) 入院対象の特徴</p> <p>3) 看護方針・看護体制、記録物の種類</p> <p>4) 看護基準・看護手順</p> <p>5) 月間、週間、日課</p> <p>6) 物品や備品、薬品の保管場所</p> <p>7) 医療廃棄物の処理方法</p> <p>3. 病棟内見学・入院患者へ挨拶</p> <p>4. 看護活動の場面に同行して、看護援助の実際を見学(行動観察)</p> <p>1) 療養上の世話 (1) 食事準備、配膳、食事介助、下膳 (2) 排泄の介助</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごと揃って各病棟へ出向く 病棟スタッフへ挨拶(代表者)</li> <li>・左記の内容でオリエンテーションを受ける</li> <li>・廃棄物性状に応じたバイオハザードマーク(分別・表示)に基づいた処理方法の説明を聞く</li> <li>・各病室を回り、実習に来ていることを伝えながら挨拶する</li> <li>・対象に行われている看護を見学する</li> <li>・対象の対応場面、コミュニケーションの場面を見学する</li> <li>・看護技術の提供: 診療の補助、日常生活援助 教育的支援活動の場面を見学する</li> </ul>	様式1-1

	行動予定	学習内容	実習記録
	(3) 移動・移送 (4) 清潔援助 (5) 睡眠や休息の環境を整える 2) 診療の補助 (1) バイタルサイン測定 (2) 与薬 (内服・注射法) (3) 包帯交換、創傷処置 (4) 検査の説明 など 5. 病棟内・病室見学し療養の環境を見学 個室、多床室、デイルーム、浴室、トイレ、洗面所、廊下、ナースステーション 14:00～15:00 学生カンファレンス ・本日の実習の振り返り ・2日目の実習内容確認	看護として提供していた内容を確認する ・医師と協働している場面や他職種と情報交換する場面などを見学する ・入院生活の環境や療養生活の実際を見学する ・療養環境：自宅の生活と入院生活の違いを自分の目で確認できたことを整理する ・司会進行は学生が行う。開始時を伝えカンファレンス場所を学生は確認する	
病棟実習2日目	9:00～14:00 行動計画発表 1. 病室・病床の環境を調整する 1) 個室・多床室の違い (構造設備基準) (1) 病室の空間、プライバシーの調整 2) 音、臭気、採光、室温・湿度 (1) 病室の室温・湿度測定 (2) 病室枕元で騒音計測 (3) 病室枕元で採光計測 3) 転倒転落防止 (1) ベッドの高さ、ベッド柵の設置 (2) 床、廊下、トイレ、浴室 4) その他 (1) 食事の環境 (2) 排泄の環境 (3) 睡眠・休息環境 (4) 憩いの場 2. ベッド周囲の環境整備と病床を整える 1) ベッドメーカー (1) 療養者が使用しているベッドのシーツ交換	・グループごと揃って各病棟へ出向く 病棟スタッフへ挨拶(代表者) 1. 病室・病床の環境を調整する ・個室・多床室の両方を見学する ・メジャー5ヶ、騒音計2台、照度計2台は学校から持参したものを使用する (スケジュール表参照) ・環境調整の必要性を確認する ・一般家庭環境と病床環境の違いを確認する 2. ベッド周囲の環境整備と病床を整える 1) ベッドメーカー ・対象に説明し了解を得る ・必要物品を使用順に上からワゴンに準備する	

	行動予定	学習内容	実習記録
病棟実習2日目	①対象に説明と同意を得る ②必要物品をワゴンに準備 ③病床上に置いてある私物類の移動 ④塵・埃を散らさないようリネン類の除去 ⑤ベッドメイキング 学生 2 人ペアで実施ベッド右側主となり左右交互に作成する（毛布は足元角、四角折り込みはしない）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除去したリネンは直接ランドリーボックスに入れる（抱え込まない）、又はビニール袋に入れてワゴンの下に置く</li> <li>・学生二人ペアになり主と副で実施する ただし抱布カバーは指導者または教員の指導の下体験する</li> </ul>	様式 1-1
	2) 環境整備 (1) 対象のベッド周囲、床頭台、オーバーテーブルの整理整頓 ①必要物品の準備 ・バケツ、上拭き雑巾、ゴミ袋、粘着クリーナー、プラスチックグローブ ②対象に了解了承を得る ③私物の移動は、対象に確認してから動かす ④実施 ⑤後片付け ⑥終了したことを対象に報告 3. コミュニケーション 1) コミュニケーションを図るための基本行動をとる (1) 訪問する前に事前に対象の情報を得る (2) 対象の了解了承を得る (3) 話をする場所、座る位置の確認 (4) 学生自己紹介 (5) 対象と会話する ・入院前（普段の生活）と入院生活の違いを対象と会話しながら確認する 例えば 食事内容・食事時間 就寝起床時間、睡眠時間 活動範囲や活動内容 (6) 対象の疲労度や様子を確認し、礼を伝え終了とする（30分程度）	2) 環境整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に対象に説明し了解を得ておく</li> <li>・ベッドメイキングした病室を含め、環境整備 2 部屋程度実施する</li> <li>・必要物品の確認</li> <li>・実施手順の確認をしてから実施する</li> <li>・対象と指導者に終了を伝える</li> </ul> 3. コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションをとる対象の情報を指導者から説明をうける</li> <li>・看護師のコミュニケーションの学びから、コミュニケーションの基本技術を使い会話を図る</li> <li>・コミュニケーションをとる場所・座る位置の設定をする</li> <li>・話し始めのきっかけ作り、雰囲気作りをする</li> <li>・対象の疲労度も考え、30分程度で終了する</li> <li>・入院前と現在入院生活とを比較し、生活の違いを会話から把握する</li> <li>・終了後どのような情報を得られたか会話の内容を指導者に報告する</li> <li>・守秘義務：知り得た対象に関する情報は、決して口外しない</li> </ul>	

	行動予定	学習内容	実習記録
病棟実習 2日目	<p>14:00～15:00</p> <p>4. 看護学を学ぶ動機を明確にする</p> <p>1) 学生カンファレンス 実習での学び、気づきなど感じたことを発表する（一人2分程度）</p> <p>2) 看護師インタビュー (1) 事前に準備した質問からインタビューを開始する (2) 先輩看護師の経験談や看護への思いを聞く（20分程度）</p> <p>3) 病棟実習終了の挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して学んだことや気づきなど感じたことを発表する</li> <li>・看護師へインタビュー開始</li> <li>・先輩看護師の経験談や看護への思いを聞く</li> <li>・対象・病棟スタッフへ実習終了の挨拶をする</li> </ul>	
外来実習	<p>外来診療科オリエンテーション</p> <p>1. 外来診療の流れ</p> <p>2. 外来のスケジュール</p> <p>3. 各診療科の特徴</p> <p>4. 外来における看護業務</p> <p>1) 診療の介助</p> <p>2) 受診者への対応</p> <p>3) 他部門・入院病棟との連携</p> <p>5. 外来診療の場（診察室・処置室）の見学</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来部門では、外来診察に来ている対象の健康障害の種類や健康レベルについて説明を受ける</li> <li>・外来における看護の特徴について説明を受ける</li> <li>・実際の診療場面・処置場面を見学する</li> <li>・外来看護師がどのように受診者と関わっているか見学する</li> <li>・受診者を観察する</li> </ul>	様式 1-1
中央材料室実習	<p>中央材料室の指示に従い、履物・マスク・キャップ・ガウンを着用し入室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手指衛生の実施</li> <li>・中央材料室内の説明を受け見学する</li> <li>・看護師の役割について学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種洗浄消毒法と滅菌法の操作技術の説明を受け見学する</li> <li>・衛生材料の洗浄法と保管場所・期間の説明を受け見学する</li> <li>・中央材料室と病棟との連携や方法の説明を受ける</li> </ul>	様式 1-1
事後学習	<p>行動計画表            実習自己評価表</p> <p>基礎 I a リフレクションシート</p> <p>技術経験録            自己学習ノート</p> <p>臨地実習出席簿</p>	<p>リフレクションシートの記載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を振り返り、看護学を学ぶということ・看護の魅力・自己課題を明らかにする</li> </ul>	実習全記録 自己評価表

## 5. 看護技術の経験

確実に実施◎    実施(見学)○

	技術項目	水準		技術項目	水準
◎	病床環境の整備・調整	実施	○	清拭・洗髪・手足浴	見学
◎	ベッドメイキング	実施	○	食事の準備 食事配膳・下膳	見学
◎	リネン交換	実施	○	車椅子・ストレッチャー移乗・移送	見学
◎	手指衛生	実施	○	移動(体位変換)	見学
○	医療廃棄物の処理方法	見学	○	排泄援助(床上排泄)	見学

6. その他

- 1) 全過程で臨地実習指導者・担当教員の助言・指導を受けながら実習を進める。
- 2) 学生は2名1組で行動する。
- 3) 記録に関して
  - (1)行動計画表の実施計画の項目・目的は、学生ペアで共有する
  - (2)見学・実施後の記録は行動計画表の「見学・実施した内容・結果」に記載する
- 4) 評価に関して
  - (1)中間評価なし。
  - (2)基礎看護学実習 I a 評価 40点。
  - (3) I a 実習評価は学生自己評価・教員評価のみとする。

7. 実習記録用紙一覧

様式No	用紙名	スケジュール 提出期限
1-1	行動計画表	毎日朝
1-10	基礎 I a リフレクションシート	実習終了の翌週月曜日

\* 「見学・実施した内容・結果」は、行動計画表の実施計画の項目に沿って整理する

8. 実習記録・その他 提出時の綴り方

<クリアファイル>

- 1) 学生自己評価表 (原本)
  - 2) リフレクションシート (基礎 I a 用 様式 1-10) のコピー
  - 3) 臨地実習出席簿
  - 4) 看護技術経験録
- ※上から1)～4)の順番で提出する

<紙ファイル>

上(表紙) 【提出資料と順番】



- 1) リフレクションシート (基礎 I a 用 様式 1-10) 原本
  - 2) 学生自己評価表 (コピー)
- .....  
 ※ 1) 2) は、各々クリアブックに入れる  
 .....
- 3) 行動計画表 (様式 1-1)
- 上から、  
 病棟実習 2日目・1日目  
 病院オリエンテーション  
 外来他部門実習  
 中央材料室実習 の順番に綴る
- 3) 環境調査ワークシート
  - 4) 自己学習ノート

下

# 行 動 計 画 表

様式 1-1 (基礎 I 実習)

月 日 曜日

学生氏名：

<本日の目標>			
時間	実施計画	見学・実施した内容・結果	見学・説明を通して 気付いたこと・わかったこと
<1日のまとめ・本日の目標の達成状況>			
		指導者サイン：	教員サイン：

三草会札幌看護専門学校

リフレクションシート

様式 1-10

提出日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ( )

実習『基礎看護学実習 I a』

第 \_\_\_\_\_ 学年 \_\_\_\_\_ 番 氏名 \_\_\_\_\_

<p>1.看護活動の場や看護活動を見学して気付いたこと、わかったこと</p>	<p>2.病院・病棟・病床環境で気付いたこと、わかったこと</p>
<p>3.健康障害のある人とその生活で気付いたこと、わかったこと</p>	<p>4.病床の環境整備・ベッドメイキングについて、臨地実習と学内実習と比較し違いや学びを記述してください</p>
<p>5.対象とのコミュニケーションにおける看護師と自分の違い</p>	<p>6.看護に対する印象の変化や新たな発見を教えてください。</p>
<p>7.この実習を終えて、あなたの今後の課題は何ですか。その課題にどのように取り組んでいきますか。</p>	

基礎看護学実習 I a 評価表 【 学生自己評価 】

		学籍番号		学生氏名			
実習施設	病院	病棟	実習期間	平成	年 月 日～ 月 日		
分類	No	評価項目			最終	割合	
看護活動の場と環境の理解	<b>I. 病院・各部署の概要がわかる</b>					40% 得点 /16	
	棟病 の院 概・ 要病	1	病院の機能と役割を知る				
		2	看護活動の場と他職種の役割を知る				
		3	病院内環境の特徴や工夫がわかる				
	<b>II. 入院の生活環境がわかる</b>						
	療養 の理 環境	4	対象の療養環境を知る				
5		病室・病床の環境を調整できる					
6		ベッド周囲の環境整備と病床を整えることができる					
看護活動の実際	<b>III. 看護師が行う看護ケアに同行し看護活動の実際がわかる</b>					35% 得点 /14	
	看護 役割	7	どのような看護を提供しているかを知る				
		<b>IV. 看護師を通して対象とのコミュニケーションの図り方がわかる</b>					
	ニコ ケミ ュー	8	対象とのコミュニケーションの必要性がわかる				
		9	コミュニケーションを図るための基本行動がとれる				
	<b>V. 中央材料室の見学を通して感染源対策など、既習した内容を深めることができる</b>						
中央 の材 割料 室	10	洗浄・消毒・滅菌の目的・種類とその方法がわかる					
	11	安全性・合理性・経済性を考えた仕組みや工夫がわかる					
	12	病棟と中央材料室の連携がわかる					
実習 組の 取り 組	<b>VI. 看護者としての姿勢態度を身につけることができる</b>					25% 得点 /10	
	責任 行動	13	看護学生としての責任を自覚した行動がとれる				
14		看護学を学ぶ動機を明確にすることができる					
<b>【評価基準】</b>					評価点	/ 40 点	
5 : できる(助言をほとんど必要とせずに行える)    4 : だいたいできる(助言をすればできる)					時間数		
3 : 努力を要す(繰り返し助言をすればできる)    2 : 助言してもできないことが多い						/ 15	
0 : 助言してもできない							
自己評価							

## 基礎看護学実習 I a 評価 ガ イ ダ ン ス

	評価項目	評価内容	評価基準
病院・病棟の概要	I. 病院・各部署の概要がわかる	1. 病院の機能と役割を知る	1) 病院・看護部の特色がわかり内容の記述ができている 2) 病棟の特色と看護体制がわかり内容の記述ができている
		2. 看護活動の場と他職種の種類を知る	1) チーム医療に携る構成員とその役割を記述できている 2) 外来を見学し、受診対象の健康レベルを述べる事ができている 3) 地域における看護活動の場があることが理解できたことを表現している
		3. 病院内環境の特徴や工夫がわかる	1) 病院・病棟の構造、設備と特徴が理解できたことを表現している
療養環境の理解	II. 入院の生活環境がわかる	4. 対象の療養環境を知る	1) 療養生活とその環境で見学できた内容を記述できている 2) 普段の生活と入院の生活環境の違いを記述できている 3) 基本的ニード充足のための環境を考え理解したことを記述できている
		5. 病室・病床の環境を調整できる	1) 病室内の温度・湿度、光・音、色彩、空気の清浄性において、プライバシーの観察ができ調整の必要性を考え実施できている
		6. ベッド周囲の環境整備と病床を整えることができる	1) 対象の安全や清潔を考えベッド周囲、床頭台の整理整頓ができている 2) ベッドメイキングは、しわのないくずれにくいベッドを作成できている
看護の機能と役割	III. 看護師が行う看護ケアに同行し看護活動の実際がわかる	7. どのような看護を提供しているかを知る	1) 入院対象の特徴が述べられている 2) 入院対象の一日の流れがわかり記述できている 3) 看護師に同行し、どのような看護を提供していたか、確認できたことを記述している
コミュニケーション	IV. 看護師を通して対象とのコミュニケーションの図り方がわかる	8. 対象とのコミュニケーションの必要性がわかる	1) 看護師が対象と行うコミュニケーションはどのような場面で行われていたか、わかったことを記述できている 2) 対象とコミュニケーションが何故必要なのか気付いたことを記述できている
		9. コミュニケーションを図るための基本行動がとれる	1) 対象へ挨拶をして、了解を得ることができている 2) 身だしなみ、表情、視線、言葉遣い、声量、声のトーンなどに気をつけ会話ができています
中央材料室の役割	V. 中央材料室の見学を通し感染源対策など、既習の内容を深めることができる	10. 洗浄・消毒・滅菌の目的・種類とその方法がわかる	1) 中央材料室における消毒・滅菌の目的・方法とその特徴について整理したことを表現できている
		11. 安全性・合理性・経済性を考えた仕組みや工夫がわかる	1) インジケーターの種類と使用方法について理解したことを表現できている 2) 滅菌物の保管・管理方法について理解したことを表現できている 3) 機械洗浄の実際や、中央一括処理の合理性・経済性を理解したことを表現できている

	評価項目	評価内容	評価基準
		12. 病棟と中央材料室の連携がわかる	1) 病棟と中央材料室の連携の実際と、滅菌物の流れを理解したことを表現できている
責任ある行動	VI. 看護者としての姿勢態度を身につけることができる	13. 看護学生としての責任を自覚した行動がとれる	1) 知り得た情報を外部に漏らさない 2) その場に応じた挨拶・身だしなみ・言葉遣いができている 3) 決められた時間・約束・規則を守ることができている 4) 実習メンバーと協力・協調した行動がとれている 5) 相手の指導助言を素直に聴くことができている
		14. 看護学を学ぶ動機を明確にすることができる	1) 看護師インタビューにより看護への気づきが得られている 2) リフレクションシートを活用し実習の学び・自己の課題を明らかにできている